

コロナ禍の世界

横浜市駐在員リポート

①

6月8日、米ニューヨークでも経済社会活動が再開した。3月22日から続くロックダウンの解除が段階的に進む。

市民はこの間、州の行政命令の下、▽食料品・必需品の買い物や通院以外は外出を控える▽外出時は他者と1.8呎の距離を保つ▽外出時はマスクなど顔を覆うものを着用する▽手洗いと消毒を徹底するの四つを忠実に守って感染防止に努め、市民に開放した。

ニューヨーク



100呎先のスーパーマーケットの入り口まで1.8呎の間隔を保って整然と並ぶ買い物客。5日、ニューヨーク・コロナバスサークル

危機下の結束固く

協力した。感染がピークの頃、私も外出は5日に1度の買い物のみ。スーパーマーケット前では1.8呎の間隔を保って並び、入場を待つ。マスクを必ず着用し、帰宅後すぐにシャワーを浴び、着衣は洗濯した。決して行き

米国の人々の危機下での結束の強さを、日々切実に感じている。一人一人は責任ある行動を取り、みんなの命を支える。「7人で医療従事者やフロントラインの人々を支える。」「PM THANK YOU」。

毎日午後7時になる。窓を開けて拍手をし、

ダイヤモンド

パンデミック(世界的大流行)を起こした新型コロナウイルスは、声援と感謝を贈る。危機下の結束は、今なお緩むことはない。

(横浜市国際局グローバルネットワーク担当理事ノ米ネットワーキング所長・関山 誠)

国・上海、インド・ムンバイの駐在員がコロナ禍の世界を報告する。『随時掲載